

工夫して、指導していきましょう。

石井康雄（前船橋市立金杉台小学校 校長）

Q

2年生「かけ算（2）」は、「かけ算（1）」を踏まえてどう指導すればよいでしょうか？

A

「かけ算（1）」では、かけ算の概念から指導し、5、2、3、4の段の九九を構成しました。学びの最後P23のエマさんの感想を「かけ算（2）」に繋げましょう。「かけ算（2）」では、6、7、8、9、1の段の九九をつくる指導をします。九九の構成はブロックからアレイ図に変わりますが、「かけ算（1）」と同様、かける数が1増えると答えがかけられる数だけ増えるという見方をさせます。単元を通して同じような指導を繰り返しますので、学習計画が立てやすいです。

九九の中で、7の段は覚えにくい九九です。なぜなら、一の位の数バラバラだからです。6の段と8の段で覚えやすいのはどちらか、9の段での規則性は何かなど、子供たちと共に考える工夫した指導をしていくと楽しく学ばせることができます。

最後に、P36は、かけ算九九を使いこなすことが目的ですので、4年上P124のような、計算のきまりを使うような指導とは区別してください。かずさんとそらさんのように、答えは同じでもいろいろな考え方ができるという不思議さを味わわせて、九九のきまりの単元に移行させましょう。

Q

2年生「三角形と四角形」では、どのような指導が効果的でしょうか？

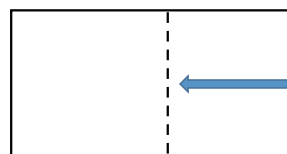
A

図形単元は、まず分類を指導します。分類では、図形の構成要素に着目させることが必要になります。P 40で子供たちは形の違いはとらえることができますが、1年前に学習した1年生P 70の「かたちづくり」で、どんなことをしたかを復習させるようにしましょう。1年生の「棒を並べて」を復習として確認すれば、3本の直線で囲まれているとか4本の直線で囲まれているという発言が出ます。このような学習展開になるように、指導を工夫してください。フリガナはさんかくけい^{さんかくけい}としかくけい^{しかくけい}ですが、呼び方はそれぞれ「さんかくけい」「しかくけい」です。

P 42の活動では、学校備品のジオボードを活用することを勧めます。P 43では、図形の性質が確実に定着するように、㊦、㊧、㊨のような反例が含まれていますので、わかりやすく指導できると思います。P 44の図形の分割では、「P 40の動物たちに赤ちゃんが産まれました。そこで、赤ちゃんの部屋を作るために、部屋を2つに分けましょう。」という問いかけが大変効果的です。子供たちの思考の流れに沿った、なだらかな移行になる発問です。

P 46からは、四角形の分類に入ります。まず、P 46では直角の意味を指導し、直角の形を見つける活動を行います。直角が有るか無いかは、四角形を分類する観点の1つですから、正確な活動をさせましょう。また、三角定規は透明なものを購入させましょう。透明な定規を使えば、ぴったり重なっているかどうかを可視できるからです。4年生で使う分度器も同様です。

長方形と正方形の指導では、図形の包摂関係にも触れてみてください。右の図で、矢印のように辺を移動させて長方形の横の長さを短くしていき、縦の長さと等しくなったときに長方形が正方形になります。長方形の特別な場合が正方形であることがわかります。



P 49では、㊩が長方形でない理由や㊦が正方形である理由をしっかりと取り上げましょう。方眼紙の使用は、P 46～47で指導した、自分で直角をつくり出す活動を経た、ここでの指導が最適です。